

人間社会学部 10 周年に想う



実践女子大学学長（創設時） 飯塚 幸子

10 周年を迎えて、卒業生 1,189 名、在学学生 913 名、二学科、大学院を擁する学部へと発展しました。設置への周到な準備と関係各位のたゆまぬ努力によって今日をみることはまことに喜ばしいことです。加えて首都の中心へ新校舎を得たことを嬉しく思います。

実践は鼎の如く、三本の学部で立つ、ゆるがぬ女子大となりました。「人間」を冠した社会学部の設置は、エリート教育的なイメージではなく、豊かな人間性を育て、世界共生の社会へ地域創造を担い得る女性を送り出す、職業教育、生涯教育、また学力の再教育、等々、社会的な公共性を軸にする思いが出発点でした。10 年を経た現在、中、長期のヴィジョンを揚げ、今後なすべき企画、アイデアを出し合って、20 年、30 年と革新を続けて常に新鮮であって欲しいと願っています。

現政府は、女性の活躍、促進を、成長戦略の柱として大きくあげています。世界経済フォーラムの、2013 年報告によれば、日本の男女格差は、136 カ国中、105 位であり、女性が活躍できていない国ということが示されています。我が実践も女性の活躍する社会を目指し、格段の努力が必要です。女性のライフサイクルに対応して、学びたいときにいつでも学び、また学びを継続できるように、若者から高齢者までの年齢の拡がり、様々な要望、今を学びたい、学び直したい、新しい分野へチャレンジしたい等々に応えられるようにと思います。

また、国際的にも留学生を送り出し、迎え入れる、お互いに理解し合うグローバルな思考を体験しつつ、身につける環境を創ることも求められます。これ等には、いずれも学生支援の為の十分な対策（資金面を含む）が重要です。

さらに女性は、人類を成り立たせる原動力を持っているのです。今後の少子化社会を考えるとき、仕事と家庭は両立を避けられない。女性が存分に活躍するには、男性が家庭で応分に分担と責任を果たすことが不可欠です。学祖の言われたように、「女性のインフルエンスをもって、社会の弊を正せ」の教えの通り、協力して、学びつつ女性が輝く、豊かな人生をおくる社会への牽引力となる人材の育成を期待しています。

最後に、学部創設を決断された、故澤井 勇元理事長、また人材面に並々ならぬお骨折りをいただいた故古沢友吉教授に「立派に 10 周年を迎えることができました」と心から感謝と報告を申し上げます。